

「熟議」って何？

今号では「熟議」について特集します。

「熟議」とは、CSを進めていく上で大切な視点(熟議、協働、マネジメント)の一つに挙げられているものです。



多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことで、政策を形成する際

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになる。

簡単に言うと熟議とは、多くの当事者が熟慮と議論を重ねながら共通認識をもったり、課題解決策を一緒に考えたりしていくことです。
(文部科学省資料より)

また、円滑な熟議には必ず第三者によるファシリテーションがあるのも特徴の一つです。ファシリテーターがいると、議論がしやすくなるのでいた方がよいと言われています。

本市の学校運営協議会でも多くの当事者が参加して、どんな子どもを育てたいのか(目指す子ども像)、学校や地域の課題の

解決策などを話し合う熟議が開催されています。例えば、次のようなテーマで熟議が行われています。

「学校と地域がつながりを深めるにはどうしたらいいか」

「子どもたちに付けたい力は」

「あいさつ力を高めるには」

「読書好きの子どもを育てるには」

「稲川の子どもたちのために保護者・地域ができること」



「保・小・中と地域が連携して実施する体育的イベントの取組、運営の可能性」

今年度も稲川小学校と湯沢東小学校で「熟議」が行われましたので、その様子を裏面で紹介します。

ファシリテーター研修会に参加

六月十九日(水)に秋田県教育委員会主催で行われた「実践演習『熟議』をコーディネート」の研修会に参加してきました。そこで、熟議とは何かなどを学習するとともに、実践を通してファシリテーターの役割

- ・ 何のために話し合うのか明確にする
- ・ 話しやすい雰囲気をつくる
- ・ 新しい気付きやアイデアを生み出す
- ・ 目標を共有する
- ・ 時間を適切に管理する
- ・ などを学んできました。

それぞれの学校運営協議会で熟議を行う際はファシリテーターを依頼してください。



稲川小学校の実践

〈テーマ〉「地域の未来を担う子どもたちに
地域と保護者ができること」

〈参加者〉 六年生児童、委員、教員、
P T A 役員、地域住民

今回の熟議は、六年生の総合的な学習の時間「稲川に『元気と感謝を届けようプロジェクト』を行うに当たって、①地域の高齢者とどんな交流ができるか、②どんな宣伝活動が効果的かについて参加者にアイデアを出していただくという内容です。はじめに、六年生が参加者にプレゼンをし、その後に熟議が行われました。①については、音読や歌の発表、昔話を聞く、昔の遊びをする、お茶会・お話会をするなど、②については、手作りのポスターやチラシ・SNSでの広報活動を行う。具体的には、スーパ―、床屋、ごみステーションなどにポスターを貼る、招待状を配る、市の広報を活用する、自治区委員の力を借りるなど、多くのアイデアが出されました。これらを参考にしながら学習を進め、十月ころに六年生が地域に向いて高齢者との交流活動を行う計画です。

今回の活動は、学校の教育目標の副題「ふるさとを愛し高め合い 主体的に行動できる子ども」の実現と「地域活性化」が同時に達成できる取組であると思います。

「熟議に参加したこと」が六年生の選んだ一学期の思い出ベスト3！にランキングしています。地域の皆さんに自分たちの思いを伝えることができたなどのコメントがありました。



湯沢東小学校の実践

〈テーマ〉「地域で目指す子ども像と学校と保護者・地域が連携
協働していくには」

〈参加者〉 委員、教員、P T A 役員、主任児童委員

昨年度行った熟議の参加者は委員と全職員でしたが、今年度はそれにP T A 役員と主任児童委員を加え、七グループに分かれてワールド・カフェ方式で行いました。①どんな子どもに育てたいか、②それを実現するために、具体的にどんなことをしていくかについて議論を交わしました。

①については、挨拶のできる子ども、ルールを守る子ども、思いやりのある子ども、元気に外で遊ぶ子ども、自ら考え行動する子ども、自己実現できる子どもなど、②については、○家庭での挨拶が基本であり、それを学校・地域でできるようにしていくことが大切
○まずは大人が動き出すこと・大人同士が関わるのが大切、○楽しい活動(例えば「おやじの会」が主催する野外活動など)に子どもを参加させること。その中で挨拶をすること、ルールを守ること、思いやりの心などを育てることができると、貴重な意見が出されました。

目指す子ども像の実現に向けて、参加者が学校だけに任せるのではなく、それぞれの立場でできることを実践していくことを願っています。

